

ハッピー通信



2024年8月20日発行
24-34号
(<http://www.jremnant.com/>)

現場から（最近のニュースから）

人生の勝敗は



パリオリンピックが終わり、メディアでは大会を振り返って、いろいろ報道されています。期待されていたのに、メダルに届かなかった人もいますが、その中で、卓球の張本智和選手が語ったことばがありました。

卓球男子は、団体戦で16年リオでの銀、21年東京五輪での銅に続く3大会連続の表彰台を目指していたのですが、4位に終わりました。エースであった張本選手は、終わってから「今が一番、スッキリしている。メダルを取れなくても、スッキリしてパリを去れる。幸せだなと思います」と言ったそうです。

張本選手は、混合ダブルスは1回戦で負け、シングルスは準々決勝敗退と3種目で表彰台に届かずには終わりました。早くから天才少年として頭角を現し、日本の最前線に躍り出た怪物だったのですが、21歳になった今、分かったことがあるということです。「これがスポーツなのかなと。悔しがる分だけ、喜ぶ人もいる。逆に今まで僕が勝ってきた裏で、負けて涙をのんできた選手がいる。勝つてばかりじゃ楽しくないのかな、と。とは言ってもメダルがほしかった。負けた以上、そう考えるしかないのかな」と言ったということです。より人間として大きく、強くなることを期待していると記事は結んでいました。（8月9日 Sponichi Annex <張本智和、メダル逃しても「幸せ」 天才が21歳で知った「これがスポーツ。今まで僕が勝ってきた裏で…」>より）

スポーツでは、勝敗があるのは当然で、勝った人がいる裏では負けた人がいます。若くから勝利を目指して走り続けてきたアスリートには、負けた人にまで心を配る余裕を持つことは難しいのかもしれません。自分が負けてはじめて、裏で負けた人のことが理解できるようになるでしょう。

人生では、何が勝利なのかはスポーツほど分からないものです。勝ち組、負け組と言われますが、ほんとうに、勝った、負けたと決めることはできないと思います。世の中の基準で見たら、勝ち組と言われても、本人の心は貧しく悲しいなら、それが良い人生とは言えないでしょう。スポーツのルールのように、点をたくさん取ったら、だれよりも早くゴールについたら、決められた技をきれいにたくさん決められたら、勝ちだということを人生にあてはめることはできないのです。自分勝手に決めた、または、世の中で決められたルールで、あなた自身を「負けた」と決めていませんか。または、「勝った」と思って、高ぶっていませんか。それがどれほど愚かなことなのかは、今までの人類の歴史を振りかえってみたら分かるでしょう。では、勝敗ではなく、あなたの人生がどうあるべきかを見る基準はなんでしょうか。新しい基準について、いっしょに見てみませんか。



救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあい、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になり、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快樂に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをして、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていいくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。



それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。



神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に出会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス・キリストです。イエス・キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してください(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち碎いて勝利なさいました(ヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス・キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。



もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス・キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス・キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の神様として受け入れます。私の罪を赦してください、私を救ってくださったことを感謝いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」

相談のある方は、いつでも連絡ください